

# いごいのみぎわ

## 天路歷程 ジョン・パニヤン

### 第45話

2022年9月25日～10月1日 各家庭でのディボーション用テキスト

そこで彼らは皆彼の所にやって来ておどし文句で立ち上がれと命じました。これを聞いて薄信者は布巾のように蒼白になって、戦う力も逃げる力もありませんでした。そのとき、臆病者は財布を渡せと言いました。しかし彼はそれを急いでしなかったのです（金を失うのがいやだったのです）、不信者は駆けよって手を懐に突っ込んで、そこから銀貨の入った袋を引き出しました。すると彼は泥棒！泥棒！と叫びますと、それを聞いて有罪者は手に持った大きな棍棒で薄信者の頭をなぐりつけ、その一撃によって彼を地面にどうと打ち倒しましたので、彼は血を流して横たわり、出血多量のため死にそうになりました。こうしている間ずっと盗人たちは側に立っていましたが、ついにだれかやって来るのを聞き、それが篤信市に住む大恵者という者ではないかと恐れて、一目散に逃げだし、後はこの善い人が何とか始末するのに任せました。さて、暫くすると、薄信者は我にかえり、起き上がって、どうにかこうにか道を這って行きました。以上がその話です。

**有望者** ですが、彼らは彼から持ち物全部をとったのですか。

**基督者** いえ、彼の宝石のありかは探さなかったのです、それはまだ持っています。しかし聞くところによれば、善良な彼はその損でひどく困ったとのこと。盗人らが彼の小遣を大部分持っていったからです。彼らがとらなかった物は（今もお話したように）宝石で、そのほか少しばかりのはした金が残っていましたが、旅行の目的地までに行くにはほとんど足りませんでした。【Ⅰペテ4:18】いや、（私の聞いたところが間違っていなければ、）彼は露命をつなぐために、道中止むを得ず乞食をしたそうです。（宝石は売ってはならなかったからです。）乞食をしたり、何でもできる事をして、（今言ったように）残る道中の大部分を何度もひもじい思いをしながら進んで行きました。

**有望者** ですが、天の門に入ることを許されるための証明書を彼らがとらなかったのは不思議ではありませんか。

**基督者** 不思議なことですが、とりませんでした。もっとも彼の巧みな手際のために見落とししたわけではないのです。彼らに襲われたので狼狽して何も隠す力もなければすべもなかったからです。彼らがそのよい物を見落とししたのは、彼の努力というよりも摂理によることでした。【Ⅱテモ1:14】

**有望者** ですが、彼らが宝石をとらなかったことは、さだめし慰めだったことでしょうか。

**基督者** もし彼が当然用うべき目的にそれを用いたならば、大きな慰めであったかもしれませんが。【Ⅱペテ1:19】ところが、私にその話をしてくれた人々によると、残る道中ほとんど使わなかったそうで、それは金を奪われたときの狼狽のためだとのこと。実際彼はあとの旅行の大部分はそれを忘れていたのです。それに、そ

れが頭に浮かんで来て慰められそうになると、損失についての新しい考えが再び彼を襲って、すべてを呑み込んでしまうのでした。

**有望者** ああ、かわいそうに。これは彼にとって大きな嘆きでないわけにはいかなかったでしょう。

**基督者** 嘆きですって、そうです。実際嘆きですね。もし私たちが彼のように強奪されて、おまけに傷を負わされ、しかも知らぬ所でそんな目にあつたならば、だれでもそうなるのではないのでしょうか。かわいそうに、彼が悲嘆のために死ななかつたのは不思議なくらいです。聞いたところによると、あとの道中はほとんど、悲しげにひどい愚痴を言い散らして行ったとか。また途中で追いついた人や、彼が追いつかれた人には、自分がどこでどんなふうに強奪されたとか、それはどんな連中だったとか、何を失ったとか、どんな怪我をしたとか、また命からがら逃げたことなど話したそうです。

**有望者** ですが、困っても宝石を幾つか売るとか質に入れるとかして、旅の道中が楽になる金を得ようとしなかつたのは驚いたことですね。

**基督者** 君は今日という今日まで、頭に卵の殻をくっつけている者のような口のきき方をしますね。何のためにそれを質に入れるのでしょうか。まただれに売ろうというのでしょうか。彼が強奪されたあの地方では、彼の宝石なんか金にならないのです。またそうしてまでも慰安を求めることをしなかつたのです。その上、もし天の都の門に行き着くまでにその宝石をなくしていたら、彼はその跡取りとなることから除外されるでしょう。（そのことを彼もよく承知しているのです。）それは彼にとっては一万の盗賊が現われて悪事を働いたよりも不幸だったでしょう。

**有望者** 兄弟よ、あなたは どうしてそんなに辛辣なのですか。エサウはその家督権を売りました。【ヘブ 12 : 16】 しかも一杯のあつもののために。その家督権は彼の最大の宝石でした。彼がそうしたなら、どうして薄信者もそうしないことがありますでしょう。

**基督者** 実際エサウはその家督権を売ったし、またほかにそうした者も沢山あって、あの卑劣漢のように、主な祝福から自分を除外してしまいました。しかしエサウと薄信者とは、また彼らの事情には、差別をたてねばなりません。エサウの家督権は象徴的なものでしたが、薄信者の宝石はそうではありません。エサウはおのが腹を神とする者でしたが、薄信者はそうではありません。エサウの欲望はその肉欲にありましたが、薄信者のそれはそうではありません。その上エサウはただ自分の肉欲を満足させる以上は望みませんでした。エサウは言いました、わたしは死にそうだ。長子の特権などわたしに何になろう。【創 25 : 32】 だが薄信者は薄い信仰しか持たないことがその運命とはいえ、薄い信仰でもある故にそんな無茶なことは言わないで、自分の宝石を大切に思っていました。だからエサウが長子の特権を失ったように、それを売るということはしなかつたのです。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい